



アニメの絵はどうして動くの

アニメの絵が動くわけ

アニメの絵が動くわけを、かんたんに実験する方法があります。まず、ノートのはしに、1センチメートルほどの縦線を1本引きます。次のページをめくり、ノートのはしの同じ場所に、今度は、縦線を少しかたむけてかきます。さらに次のページは、前のページより少しかたむけてかいていきます。このようにして、最低でも20ページほど使って、縦線を縦から横に、少しずつかたむけてかいていきます。

完成したら、ページのはしをつまんで、パラパラパラと、めくってみてください。おそらく、その縦線が、まるで縦から横に動いているように見えるはずです。アニメが動くというのも、わけはこの実験とほぼ同じです。

本物のアニメの作り方

アニメは、1秒間の動きを分解して、18～24枚の絵に分けてかいていきます。それを順番に1枚ずつ写真にとっていきます。写真にとったフィルムを、速い動きで続けて見ると、まるで絵が動いているように見えるのです。

1秒間に24枚も絵が必要なわけですから、15分間のアニメを動かすためには、2万枚以上の絵をかかなければならないことになります。1つ1つかいていたらたいへんなので、背景の絵と、主人公などの動きのある人物を、別々に分けてかいています。動きのある人物は、セルというすきとおったものの上にかき、背景と重ねて写真をとっていくのです。そうすれば、かなり手間がはぶけます。しかし、それでも、やはり、たくさんの絵をかかなければならないのは、同じです。アニメをつくるのは、とても手間のかかるものなのです。最近では、コンピュータが利用されています。（監修・青木 国男）

